

2019年度第3回スポジンサロン

日時：2019年12月20日（金）18:00～

場所：筑波大学東京キャンパス431教室（東京都文京区大塚3丁目29-1）

演題：関東大震災後の東京における体育・スポーツを通した復興への試み

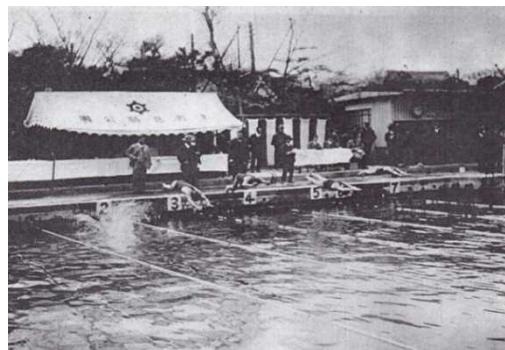
発表：大林太朗（筑波大学体育系助教）

【発表要旨】

「地震大国」とも称される日本は、これまで幾度となく災害に見舞われてきた。中でも1923年9月1日に発生したM7.9の関東大震災は、大規模な揺れと火災によって首都圏に甚大な被害をもたらし、有史以来の大災害として語り継がれている。そして、帝都復興院総裁、後藤新平の大構想に始まった6年間にわたる帝都復興事業は、罹災の中心となった東京・横浜を近代的な都市として再興させた歴史的事業として評価されている。

本発表では、この関東大震災後の東京における体育・スポーツを通した復興への試みについて、震災直後の「慰安運動会」（1923年11月25日）、復興過程で毎年秋に実施された「東京市民運動競技大会」（1924年～1930年）、そして一連の帝都復興事業の完了を祝して開催された「帝都復興記念体育大会」（1930年）のスポーツイベントに着目し、それぞれの経緯と内容を文献・写真史料をもとに明らかにする。

なお、その際には、2019年NHK大河ドラマ「いだてん～東京オリムピック噺～」との関連性についても言及する。特に、第24話「種まく人」（6月23日放送）の主題となった「復興運動会」は、上記の各大会の資料等を参考にして脚本化されたものである。真田教授（学会長）とともに時代考証（スポーツ史）を担当させていただいた際のエピソードなどを織り交ぜながら紹介したい。



帝都復興祭における復興幹線通路マラソン（左）、水上競技（右）の記録写真
(東京市役所(1932) 帝都復興祭志, p.521, 東京市役所. より)